

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3610125381		
法人名	医療法人 栄寿会		
事業所名	グループホームひかる		
所在地	徳島市名東町1丁目		
自己評価作成日	平成26年6月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成26年10月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>医療連携体制を整備している。近隣に協力医療機関があり、緊急時には、24時間対応が可能となっている。防災体制についても、自動火災感知設備・スプリングクレー設備・消火用散水栓・119番通報装置を設置している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、法人が運営する協力医療機関に隣接しており、受診やリハビリ、往診、緊急時の24時間対応が可能となっている。やむを得ず重度化に至った場合の対応指針も整備されており、利用者や家族の安心に繋がっている。また、事業所は町内会に加入し、積極的に地域交流に努めている。近隣の保育所や小学校の子どもたち、ボランティアなどの来訪は、利用者の喜びとなっている。職員は、事業所内外の研修会や勉強会に積極的に参加し、サービスの質の向上にむけ、意欲的に取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひかる ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、日頃から理念を共有し、入居者の介護等に活かせるように努めている。	全職員は、ミーティング時に理念を唱和し共有を図っている。“地域交流で広がる豊かな心、ゆとりある生活”を利用者が送れるよう、ケアの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学生や保育所の子供達来訪がある。また、運動会に招待されることもある。	事業所は、町内会に加入している。ボランティアによる紙芝居やハーモニカ演奏、近隣の小学校や保育所の子どもたちの来訪がある。また、運動会の予行練習を見学に行ったり、法人の夏祭りには、近隣住民を招待するなど、双方向に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席頂いた町内会長や老人クラブ会長に、協力できることを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービス内容や現状の報告を行い、意見交換を行っている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者や家族、老人会、地域包括支援センター職員等の出席を得ている。事業所の取り組みや現状報告のほか、勉強会や意見交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、実績報告書を提出する時に、担当者の方と情報交換を行っている。	職員は毎月、市の担当窓口へ出向き、実績報告書を手渡している。その際には情報提供や相談を行い、助言を得るなどして連携強化に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で学んでいる玄関の施錠は、夜9時から翌日6時迄としている。日中は、開錠しており、自由に出入りできるようになっている。	職員は、身体拘束をしないケアの研修を受け、身体拘束の内容や弊害について理解している。日中は玄関は施錠しておらず、自由な出入りが可能となっている。利用者の外出のくせや傾向を把握し、職員と一緒に外出したり、ドアに鈴をつけ見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で学んでいる。またカンファレンスやミーティング等で話で話し合いを行い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひかる ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修を受け、必要な時には、家族への支援ができる様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には、本人や家族に丁寧な説明を行っている。またいつでも解約できる事を併せて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。また、管理者や職員に、利用者が気軽に言ってもらえるようにしている。意見や要望等があれば、対策を検討し対応している。	職員は、面会等の機会に家族に声かけを行い、意見や要望を聴いている。また、言うことをためらう家族の心情に配慮し、年2回の家族アンケートや意見箱の設置も行っている。出された意見は速やかに検討し、運営面に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	大事な事柄に関しては、現場の意見を取り入れている。	管理者と職員は、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけている。管理者は、職員から出された意見を積極的に運営面に取り入れるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料は、昇給時に考慮している。また、労働時間は、週40時間を遵守している。親睦会等の費用を一部負担している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修があり、特に、外部研修については、受講料・交通費等の事業所負担を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価事業等による交流の機会があり、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひかる ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時に面接を行い、困っていることや要望を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時に、要望等を聞いている。また、利用開始後も不安に思っている事を聞き、介護に活かすように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の方に、家庭での生活状況や性格等を教えてもらいケアプランに反映している。また、他の事業所から移られた時には、医療情報や生活状況を参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝食・昼食・夕食は、ホールで入居者と職員と一緒に摂り、暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が面会に来られた時に、要望を聞くと共にホームでの生活状況を知ってもらっている。家族と共に入居者様が支えていける様に、努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や馴染みの方が気軽に来訪してくれている。	家族や友人の来訪時には、ホールや居室に案内してお茶を入れ、ゆっくりと過ごせるよう配慮している。利用者がこれまでに培ってきた人間関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が声かけをしたり、ドライブやレクリエーション等を通じて皆が楽しめる場を作っている。利用者が孤立しないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひかる ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の病院や事業所に移られ方には、時折面会に行き、様子をお伺いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から、希望などを聞き把握している。	職員は、日頃の利用者との会話や行動、家族からの情報等から、本人の全体像の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	カンファレンス時には、状況等を話し合っ把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	重要なことは、申し送りや個別の記録、連絡帳ノートに記載し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月毎にカンファレンスを行い本人や家族から希望を聞き、介護計画に取り入れている。	事業所は、関係者でカンファレンスを行い、本人の意向や家族の思いを反映させた介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを行い、現状に即した計画となるよう見直しもしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別の介護記録に記載している。重要なことは、連絡ノートに記載し、情報は、職員間で共有している。また、カンファレンスを行い介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて柔軟に対応できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひかる ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の理髪店の方が、月1回来訪して散髪をしてくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連帯体制を整備して、入居者の方は、全員医療機関の医師からの指示をもっている。	家族の希望で利用者全員が、隣接する協力医療機関をかかりつけ医としている。月2回の訪問診療や緊急時の24時間対応等、本人や家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師資格を保有する職員がいるため、いつでも気軽に相談できる変化が見られた時には、看護師に相談し医師からの支持ももらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の医師と連携し、意見交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族の方に病状等の説明を行い、急変時や終末期の要望を聞いている。	事業所は、契約時に終末期に関する指針を説明し、本人や家族の同意を得ている。利用者の心身状況の変化に応じ、そのつど関係者で話しあい、方針を共有したうえでそれぞれが納得できるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、また、内部研修でも学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間・休日を想定した避難訓練を年2回実施している。また、消防署の協力を得て、AEDの操作方法や蘇生法、地震時の対応方法などについて学習している。	事業所は年2回、法人全体や事業所独自に避難訓練を行っている。防災委員会を月1回開催し、実践的な取り組みや非常用の食料等の備蓄もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひかる ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを傷つけない言葉使いや介護を行っている。	全職員は、言葉かけの内容や語調、言葉遣いに配慮し、誇りやプライバシーを傷つけない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりとわかりやすく説明をし自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで自由に過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気に入った服装をしてもらっている。季節に合わない服装をしている時には、さりげなく声掛けをして、居室で着替えて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	白寿のお祝い等では、好きな食べ物を献立に入れている。また、利用者に配膳、下膳を手伝ってもらっている。	調理は併設の事業所で行い、盛り付けは職員が行っている。誕生日等、行事食の献立は、利用者の希望を聞き、事業所で作っている。また、利用者は、職員と一緒におやつ作りを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の管理栄養士が献立を作り、主食・副食の食事量のチェックをしている。ペットボトルに白湯やお茶を入れ、居室でいつでも飲めるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいの声掛けをそて、洗面所へ誘導して確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひかる ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握している。排泄に失敗して衣類を汚した時には、プライドを傷つけないように、声掛けを行いながら、更衣 介助をしている。また、トイレへの移動が間に合わない方には、居室にポータブルトイレを設置している。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけで、トイレでの排泄を支援している。タイミングを見計らってトイレ誘導をすることで、布パンツで過ごされている利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日行っている棒体操への参加による適度な運動や、手作りヨーグルトを食べてもらったりして、便秘の予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、週3回(月・水・金)となっているが、いつでも入れる体制をとっている。利用者の希望により 昼間に入浴している方が多い。	事業所は、週3回の入浴日を設けているが、利用者の希望に応じて臨機応変に対応している。また、季節ごとに入浴剤を変えるなどして、くつろいだ気分で入浴できるよう工夫している。皮膚の清潔保持や保湿にも努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースで過ごしてもらっている。昼間に眠りたい方は、今で休んでもらっている。また、夜間の巡回時は、大きな音を出さないように気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ごとの薬のファイル(用量・効能・副作用)が作成されている。協力医療機で厚かかっている薬のリストもある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ミニ菜園に野菜や花を植えて、草抜きや水やりを、してもらっている。また、野菜類は収穫する楽しみを感じてもらうとともに、食卓に出して食べてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	随時、季節の花見や外食を楽しんでいる。また、家族の協力で買い物を楽しまれている。	利用者と職員は、日頃から、近くの神社への散歩や買い物へ出かけている。また、家族の協力も得て、季節の花見やドライブ、外食等も支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひかる ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方とともに相談し、利用者一人ひとりの能力に応じたて、小遣い低度の 小額を持っていただいている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人への電話や手紙を出す支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの窓からは、植物が緑のカーテンとなり癒しの空間となっている。また、ホールや食卓には季節の野菜や植物を飾っている。	ホールや廊下は清掃が行き届いており、清潔で心地よい環境整備ができています。また、利用者の作品や行事写真、季節の花等が飾られ、家庭的で季節感のある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや食堂で、入居の方がそれぞれ気に入った場所で話をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や食器等日頃から使い慣れたものを持ってきていただいている。	事業所は、入居前に、家庭で使い慣れた家具や思い出の品を持参していただくよう説明している。馴染みのものや家族の写真を傍らに置くことで、その人らしく安心して暮らせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・老化・浴室には、手すりを設置している。また、トイレの便器は立ち上がりやすいように、洋式となっている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひかる ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、日頃から理念を共有し、入居者の介護等に活かせるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学生や保育所の子供たちの来訪があるまた、運動会に招待される事もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席いただいた町内会長や老人クラブ会長に協力できることを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービス内容や現状の報告を行い、意見交換等を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、実績報告書を提出する時に、担当者の方と情報交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、夜9時から翌日6時までとしている。日中は、開錠しており、自由に入りができる様になっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で学んでいる。また、カンファレンスやミーティング等で話し合いを行い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	ひかる ユニット2	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修を受け、必要な時には家族への支援ができる様に努めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には、本人や家族に丁寧な説明を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。また、管理者や職員に、利用者や家族が気軽に言ってもらえるようにしている。意見や要望等があれば、対策を検討し、対処している。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	大事な事柄に関しては、現場の意見を取り入れている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料は昇給時に考慮している。また、労働時間は、週40時間を厳守している。親睦会等の費用を一部負担している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修があり、特に外部研修については、受講料・交通費等の事業所負担を行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価事業等による交流の機会があり、サービスの質の向上に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	ひかる ユニット2	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時に、面接を行い、困っていることや要望を聞いている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時に要望等を聞いている。また、利用開始後も不安に思っていることを聞き、介護に活かすように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の方に、家庭での生活状況や性格等を教えてもらっている。また、他の事業所から移られた時には、医療情報や生活情報を参考にしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝食・昼食・夕食は、ホールで入居者と職員と一緒に摂り、暮らしを共にする関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が面会に来られた時に、要望を聞くと共に、ホームでの生活状況を知ってもらっている。家族と共に入居者様が支えていける様に、努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や馴染みの方が気軽に来訪してくれている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が声かけをしたり、ドライブやレクリエーション等を通じて皆が楽しめる場を作っている。利用者が孤立しないように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	ひかる ユニット2	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている		併設の病院や事業所に移られた方には、時折面会に行き、様子をお伺いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している		日常の会話から、希望などを聞き把握している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		カンファレンス時には、情况等を話し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている		重要なことは、申し送りや個別の記録、連絡ノートに記載し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している		3ヶ月毎にカンファレンスを行い、本人や家族から要望をお聞きし、介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		日々の様子は個別の介護記録に記載している。重要なことは、連絡ノートに記載し、情報は、職員間で共有している。また、カンファレンスを行い、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる		必要に応じて、柔軟に対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	ひかる ユニット2	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の理髪店の方が、月1回来訪して散髪をしてくれている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制を整備して、入居者の方は全員、協力機関の医師がかかりつけ医となっている。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師資格を保有する職員がいるため、いつでも気軽に相談できる。変化が見られた時には、看護師に相談し医師からの指示をもらっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力機関の医師と連携し、情報交換をしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族の方に病状等の説明を行い、急変時や終末期の要望を聞いている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、また内部研修でも学習している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練を年2回実施している。また、消防署の協力を得て、AEDの操作方法や蘇生方法、地震時の対応方法について学習している。			

自己	外部	項目	自己評価	ひかる ユニット2	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを傷つけない言葉遣いや介護を行っている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりとわかり易く説明し、自己決定が出来る様に支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで自由に過ごしていたいでいる。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気に入った服装をしてもらっている。季節に合わない服装をしている時には、さりげなく声かけをして、居室で着替えて頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	白寿のお祝い等では、本人に好きな食べ物を聞き、献立づくりに取り入れている。また配膳、下膳を手伝ってくれている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の管理栄養士が献立を作り、主食・副食の食事量のチェックをしている。ペットボトルに白湯やお茶をいれ、居室でいつでも飲めるようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいの声かけをして、洗面所へ誘導している。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひかる ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握している。排泄に失敗して衣類を汚した時にはプライドを傷つけないように声かけを行いながら、更衣介助をしている。また、トイレへの移動が間に合わない方には、居室にポータブルトイレを設置している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や、手作りのヨーグルトを食べてもらったりして、便秘の予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、週3回(火・木・土)となっているがいつでも入れる体制をとっている。利用者の希望により、昼間に入浴をしている方が多い。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースで自由に過ごしていただいている。昼間に眠りたい方は、居室で休んでもらっている。また、夜間の巡回時は大きな音を出さないように気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人毎の薬のファイル(用量・効能・副作用)が作成されている。協力機関で扱っている薬のリストもある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ミニ菜園に野菜や花を植えて、草抜きや水やりをしてもらっている。また、野菜類は収穫する楽しみを感じてもらうとともに、食卓に出して食べてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	随時、季節の花見や外食を楽しんでいる。また、家族の協力で外食したり、食事や買い物を楽しまれている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひかる ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方とも相談し、利用者一人ひとりの能力に応じて、小遣い程度の少額を持っていただいている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人への電話や手紙を出す支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの窓からは、植物が緑のカーテンとなり、癒しの空間となっている。また、ホールや食卓には、季節の野菜や植物を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや食堂で、入居者の方がそれぞれ気に入った場所で話をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や食器など、日頃から使い慣れたものを持ってきて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・廊下・浴室には、手摺を設置している。また、トイレの便器は立ち上がりやすいように、洋式となっている。		